

宮城大学の現状について

I	大学の沿革と学生数等について	1
II	教育の状況について	4
III	研究の状況について	28
IV	地域貢献の状況について	31



I 大学の沿革と学生数等について

1 大学の沿革と収容定員の推移

宮城大学は平成9年4月に看護学部（1学科）・事業構想学部（2学科）で開学し、平成17年4月には食産業学部（3学科）を設置している。

大学院については、平成13年4月に看護学研究科・事業構想学研究科、平成21年4月に食産業学研究科を設置している。

平成29年4月に学部・学科制から学群・学類制に移行し、看護学群（1学類）、事業構想学群（3学類）、食産業学群（2学類）を設置している。

単位：人

沿革	学群（学部）収容定員				大学院収容定員							合計	
	看護	事業構想	食産業	計	看護学研究科		事業構想学研究科		食産業学研究科		計		
					博士前期	博士後期	博士前期	博士後期	博士前期	博士後期			
H9.4	開学 看護学部（1学科） 事業構想学部（2学科）	380	800	—	1,180	—	—	—	—	—	—	—	1,180
H13.4	大学院（修士課程）設置 看護学研究科 事業構想学研究科	380	800	—	1,180	20	—	40	—	—	—	60	1,240
H17.4	食産業学部設置（3学科）	380	800	500	1,680	20	—	40	—	—	—	60	1,740
H20.4	大学院（博士課程）設置 事業構想学研究科	380	800	500	1,680	20	—	40	9	—	—	69	1,749
H21.4	公立大学法人宮城大学設立 大学院（修士課程）設置 食産業学研究科	380	800	500	1,680	20	—	40	9	26	—	95	1,775
H22.4	大学院（博士課程）設置 看護学研究科	380	800	500	1,680	20	9	40	9	26	—	104	1,784
H25.4	大学院（博士課程）設置 食産業学研究科	380	800	500	1,680	20	9	40	9	26	9	113	1,793
H29.4	宮城大学創立20周年 宮城農業短期大学創設65周年 学部・学科制から学群・学類制 へ移行 看護学類（1学類） 事業構想学群（3学類） 食産業学群（2学類）	380	800	500	1,680	20	9	40	9	26	9	113	1,793

課程	看護学群	事業構想学群	食産業学群
学士課程	看護学類	事業プランニング学類 地域創生学類 価値創造デザイン学類	食資源開発学類 フードマネジメント学類

課程	看護学研究科	事業構想学研究科	食産業学研究科
博士前期課程	基盤看護学分野 成熟期看護学分野 次世代育成看護学分野 広域看護学分野	ビジネスマネジメント領域 ビジネスプランニング領域 空間デザイン領域 情報デザイン領域	食品イノベーション領域 食品ビジネスマネジメント分野 食品技術開発分野 農環境イノベーション領域 ファームマネジメント分野 環境マネジメント分野
博士後期課程	生涯健康支援看護学分野	産業・事業システム領域 地域・社会システム領域	食品研究領域 農・環境研究領域

2 学生数（在籍者数）の状況と推移（R2. 5. 1 現在）

令和2年度の在籍者数は、学群（学部）1,788人、大学院82人の合計1,870人となっている。

学群（学部）の男女比は男性約30%、女性約70%、県内外比は県内約65%、県外・海外約35%と例年とほぼ同じ比率となっている。

大学院の男女比は男性約43%、女性約57%、県内外比は県内約62%、県外・海外約38%と例年とほぼ同じ比率となっている。

学群（学部）、大学院ともに女性、県内出身者が多い状況となっている。

（1）学群（学部）

単位：人

	H29		H30		R1 (H31)		R2		R2				
	収容定員	在籍者数	収容定員	在籍者数	収容定員	在籍者数	収容定員	在籍者数	男女別内訳		県内外内訳		
									男	女	県内	県外	留学生
看護学群（学部）	380	390	380	398	380	404	380	406	26 (6.4%)	380 (93.6%)	262 (64.5%)	143 (35.2%)	1 (0.2%)
事業構想学群（学部）	800	854	800	858	800	859	800	860	370 (43.0%)	490 (57.0%)	635 (73.8%)	209 (24.3%)	16 (1.9%)
食産業学群（学部）	500	539	500	526	500	524	500	522	156 (29.9%)	366 (70.1%)	267 (51.1%)	245 (46.9%)	10 (1.9%)
合計	1,680	1,783	1,680	1,782	1,680	1,787	1,680	1,788	552 (30.9%)	1,236 (69.1%)	1,164 (65.1%)	597 (33.4%)	27 (1.5%)

（2）大学院

単位：人

	H29		H30		R1 (H31)		R2		R2				
	収容定員	在籍者数	収容定員	在籍者数	収容定員	在籍者数	収容定員	在籍者数	男女別内訳		県内外内訳		
									男	女	県内	県外	留学生
看護学研究科	29	36	29	36	29	32	29	30	6 (20.0%)	24 (80.0%)	20 (66.7%)	10 (33.3%)	0 (0.0%)
事業構想学研究科	49	43	49	34	49	25	49	26	18 (69.2%)	8 (30.8%)	18 (69.2%)	7 (26.9%)	1 (3.8%)
食産業学研究科	35	23	35	22	35	23	35	26	11 (42.3%)	15 (57.7%)	13 (50.0%)	12 (46.2%)	1 (3.8%)
合計	113	102	113	92	113	80	113	82	35 (42.7%)	47 (57.3%)	51 (62.2%)	29 (35.4%)	2 (2.4%)

3 教職員数の状況と推移 (R2.5.1 現在)

令和2年度の教職員数は、教員132人、教員を除く職員116人の合計248人となっている。

教員は、前年度対比で9人減となっている。

正職員に占める法人採用職員の割合は、昨年度と変わらず83.9%となっている。

(1) 教員数

単位：人

	H29	H30	R1	R2					計
				教授	准教授	講師	助教	助手	
看護学群（学部）	49	48	51	14	9	5	15	3	46
事業構想学群（学部）	32	31	34	22	8	2	1	-	33
食産業学群（学部）	43	42	40	21	6	3	7	-	37
基盤教育群	10	15	15	6	6	2	1	-	15
国際交流・留学生センター	5	-	-	-	-	-	-	-	-
地域連携センター	-	1	1	-	1	-	-	-	1
合計	139	137	141	63	30	12	24	3	132

(2) 職員数（教員を除く）及び非常勤職員数

単位：人

	H29	H30	R1	R2	備考
正職員（A）	62	64	62	62	
県からの派遣職員	13	11	10	10	
法人の採用職員	49	53	52	52	
正職員に占める法人職員の割合	79.0%	82.8%	83.9%	83.9%	
非常勤職員等（B）	55	54	53	54	業務限定職員2名含む
合計（A+B）	117	118	115	116	

II 教育の状況について

1 入試の状況

(1) 学群の出願者数及び実質競争倍率の推移

本学では学群・学類への改組に伴い、平成 29 年度入学者選抜から入試制度を大きく変更した。この入試制度改革の内容としては、①AO入試の新たな導入、②センター試験を課す推薦入試への変更、③一般選抜後期日程の募集人数減、④一般選抜前期日程の募集人数増など、多岐に渡った。本入試制度下では、令和 2 年度入学者選抜をもって、4 度目の入学者選抜となった。

全学群での出願者数については、平成 28 年度入学者選抜までは概ね 2,000 人前後で推移していたが、入試制度改革の初年度である平成 29 年度入学者選抜では 1,734 人へと減少し、実質競争倍率（合格者数／受験者数）も約 3 倍から 2.4 倍に低下した。以降、隔年現象の影響と考えられる増減を繰り返し、出願数の増加が予想された令和 2 年度入学者選抜であったが、結果としては、概ね「前年並み」となる合計 1,691 人の出願となり、平成 31 年度入学者選抜試験からは 54 人の減となった。受験者を取り巻く外的要因（翌年度からの新入試制度の導入や高等教育の修学支援新制度の実施）が、どの程度本学への出願動向に影響があったのか今後分析を進めていきたい。

令和 2 年度入学者選抜【学群（学部）】 実施結果（全学）

【全学】		H28年度 入学	H29年度 入学	H30年度 入学	H31年度 入学	R02年度 入学
出願者数	AO		205	174	153	190
	推薦	322	184	227	210	180
	一般選抜（前期）	612	608	684	648	642
	一般選抜（後期）	1,041	678	767	707	653
	合計（特別選抜，編入含む）	2,027	1,734	1,926	1,745	1,691
実質競争 倍率	AO		3.9	3.4	3.0	3.5
	推薦	2.2	1.9	2.2	2.3	1.9
	一般選抜（前期）	2.7	2.0	2.3	2.0	1.9
	一般選抜（後期）	5.2	5.0	5.3	4.2	3.4
	合計（特別選抜，編入含む）	3.0	2.4	2.7	2.4	2.3

学群別の出願状況

【看護学群】

学群全体の出願者数としては、昨年度 458 人から 419 人に減少したが、AO入試の出願者数は増加（52→67 人）した。看護学群では、特に、受験生の志望校選択における「安全志向」の影響により、チャレンジを避け、「一般選抜」「推薦入試」で出願数が減少した可能性が考えられる。

【事業構想学群】

学群全体の出願者数としては、昨年度 737 人から 772 人に増加した。特に、第一志望での出願が多いと言われている「一般選抜（前期日程）」での増加（282→332 人）のインパクトが大きかった。

【食産業学群】

学群全体の出願者数としては、昨年度 550 人から 500 人に減少した。前年度に引き続き、

専願入試である「AO入試」「推薦入試」の出願者数の低調が改善されなかった。特に、第一志望での出願が多いと言われている「一般選抜（前期日程）」での減少（213→164人）のインパクトが大きかった。

(2) 出願者の出身地・男女比の推移

令和2年度入学者選抜における出願者（全学群）の宮城県内比率は62.2%であり、ここ2年間と大きな変動はなかった。また、男女比率についても、男性35.2%、女性64.8%と大きな変動はなかった。

出願者の出身地を学群別にみると、宮城県内比率は、看護学群では前年度から変動はなかったが、事業構想学群で約5%低下し、食産業学群で約3%上昇した。また、男女比率については、前年度と比較して、看護学群で女性比率が約2%増加し、事業構想学群及び食産業学群で男性比率がそれぞれ約3~5%増加したものの、大きな変動はなかった。

なお、試験区分ごとにおける出願者の出身地比率は、前年度から大きな変動は見られず、ほぼ同傾向であった。

① 出願者の出身地及び男女比率（全学群）

	平成30年度入学者選抜						平成31年度入学者選抜						令和2年度入学者選抜					
	人数	構成比	うち男性の数	うち女性の数	男性比率	女性比率	人数	構成比	うち男性の数	うち女性の数	男性比率	女性比率	人数	構成比	うち男性の数	うち女性の数	男性比率	女性比率
宮城県	1,196	63.1%	461	735	38.5%	61.5%	1,096	62.8%	372	724	33.9%	66.1%	1,052	62.2%	411	641	39.1%	60.9%
東北(宮城県除く)	444	23.4%	92	352	20.7%	79.3%	368	21.1%	80	288	21.7%	78.3%	390	23.1%	94	296	24.1%	75.9%
東北以外・その他	254	13.4%	82	172	32.3%	67.7%	281	16.1%	108	173	38.4%	61.6%	249	14.7%	91	158	36.5%	63.5%
合計	1,894		635	1,259	33.5%	66.5%	1,745		560	1,185	32.1%	67.9%	1,691		596	1,095	35.2%	64.8%

② 出願者の出身地及び男女比率（学群別）

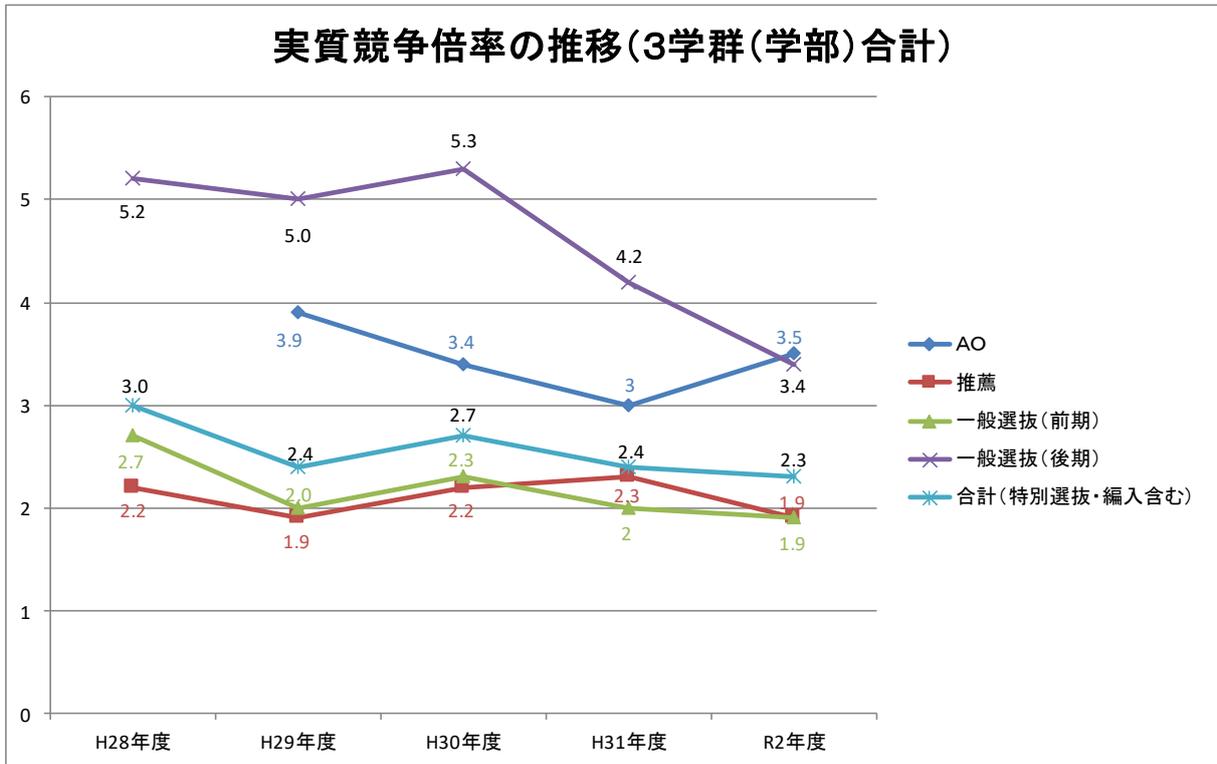
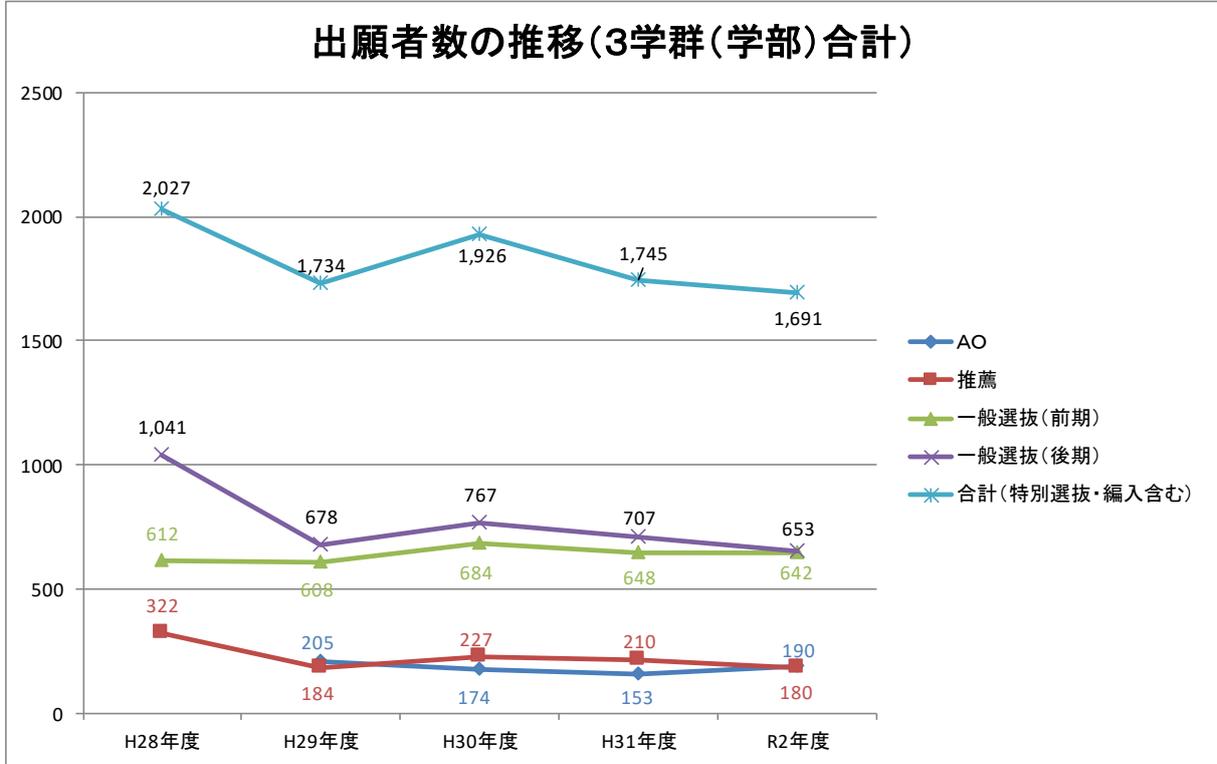
		平成30年度入学者選抜						平成31年度入学者選抜						令和2年度入学者選抜					
		人数	構成比	うち男性の数	うち女性の数	男性比率	女性比率	人数	構成比	うち男性の数	うち女性の数	男性比率	女性比率	人数	構成比	うち男性の数	うち女性の数	男性比率	女性比率
看護学群	宮城県	227	52.1%	15	212	6.6%	93.4%	307	67.0%	41	266	13.4%	86.6%	281	67.1%	31	250	11.0%	89.0%
	東北(宮城県を除く)	151	34.6%	10	141	6.6%	93.4%	121	26.4%	7	114	5.8%	94.2%	105	25.1%	7	98	6.7%	93.3%
	東北以外・その他	58	13.3%	6	52	10.3%	89.7%	30	6.6%	4	26	13.3%	86.7%	33	7.9%	2	31	6.1%	93.9%
	合計	436		31	405	7.1%	92.9%	458		52	406	11.4%	88.6%	419		40	379	9.5%	90.5%
事業構想学群	宮城県	669	74.3%	324	345	48.4%	51.6%	542	73.5%	245	297	45.2%	54.8%	530	68.7%	283	247	53.4%	46.6%
	東北(宮城県を除く)	181	20.1%	52	129	28.7%	71.3%	135	18.3%	46	89	34.1%	65.9%	169	21.9%	60	109	35.5%	64.5%
	東北以外・その他	51	5.7%	23	28	45.1%	54.9%	60	8.1%	28	32	46.7%	53.3%	73	9.5%	28	45	38.4%	61.6%
	合計	901		399	502	44.3%	55.7%	737		319	418	43.3%	56.7%	772		371	401	48.1%	51.9%
食産業学群	宮城県	300	53.9%	122	178	40.7%	59.3%	247	44.9%	86	161	34.8%	65.2%	241	48.2%	97	144	40.2%	59.8%
	東北(宮城県を除く)	112	20.1%	30	82	26.8%	73.2%	112	20.4%	27	85	24.1%	75.9%	116	23.2%	27	89	23.3%	76.7%
	東北以外・その他	145	26.0%	53	92	36.6%	63.4%	191	34.7%	76	115	39.8%	60.2%	143	28.6%	61	82	42.7%	57.3%
	合計	557		205	352	36.8%	63.2%	550		189	361	34.4%	65.6%	500		185	315	37.0%	63.0%

③ 出願者の出身地比率（試験区分別）

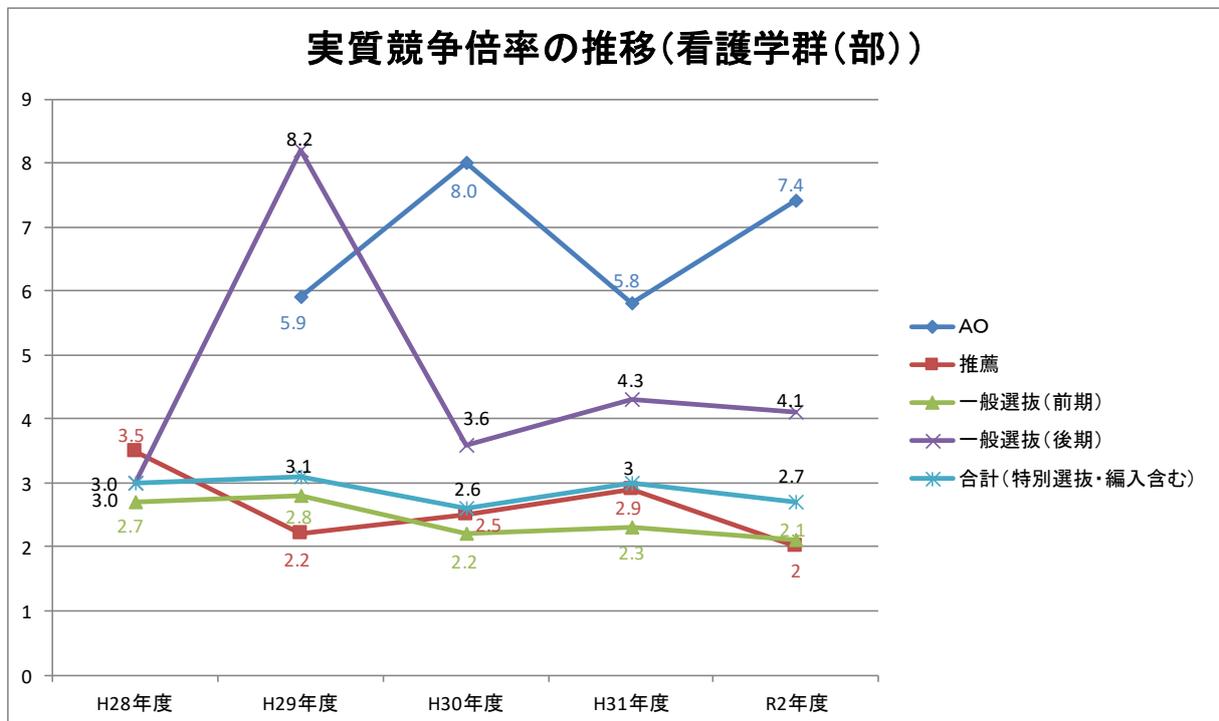
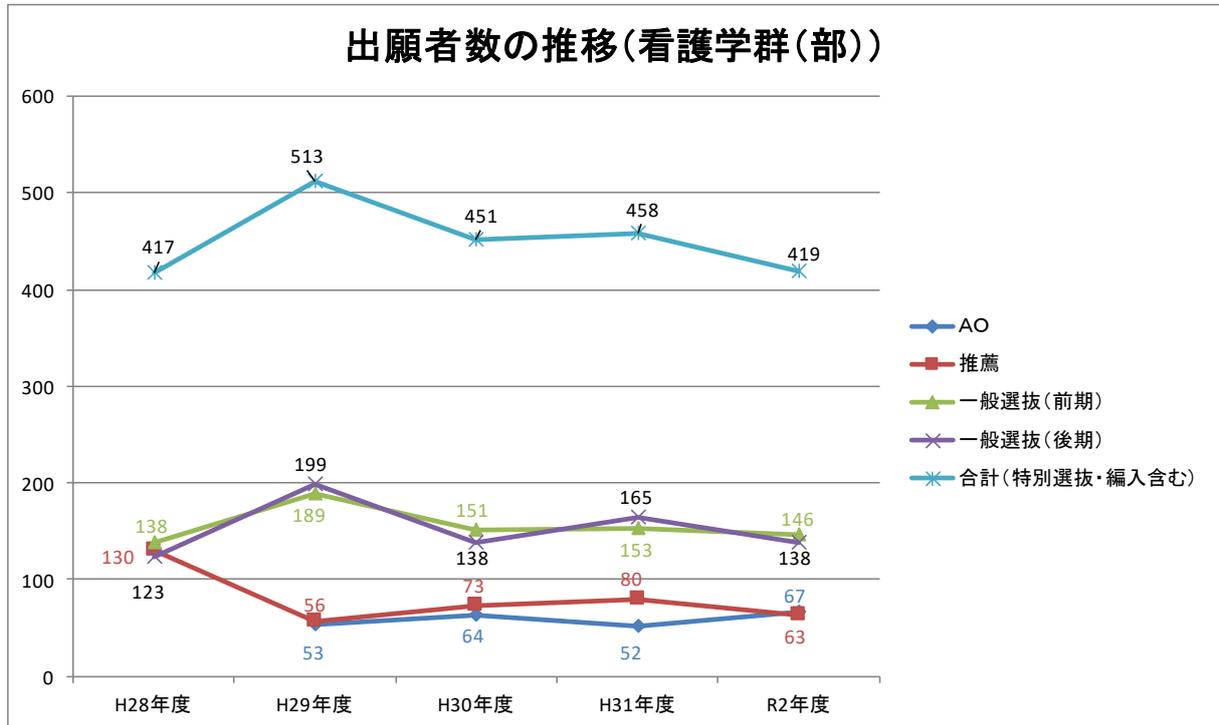
	AO		推薦		一般前期		一般後期	
	H31	R02	H31	R02	H31	R02	H31	R02
宮城県	55.6%	57.4%	64.3%	61.7%	66.5%	67.1%	62.5%	60.8%
東北(宮城県を除く)	35.3%	33.7%	30.5%	31.1%	18.7%	21.0%	18.0%	20.2%
東北以外・その他	9.2%	8.9%	5.2%	7.2%	14.8%	11.8%	19.5%	19.0%

【参考】出願者数及び実質競争倍率の推移

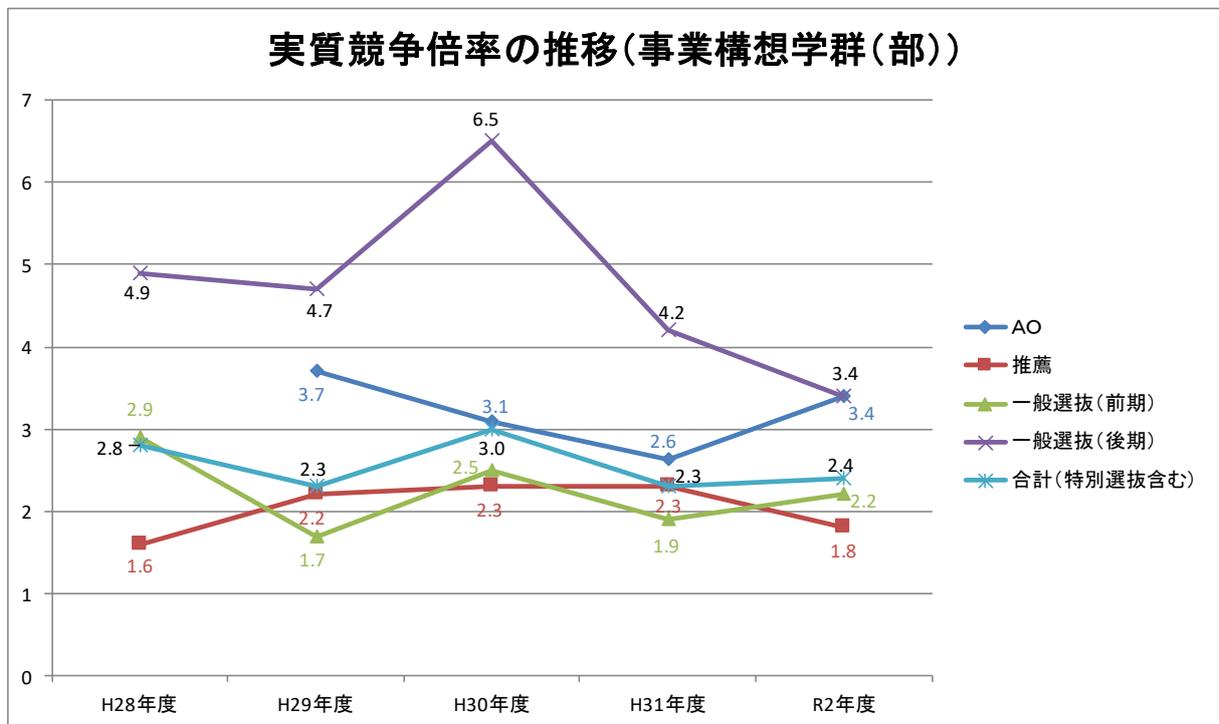
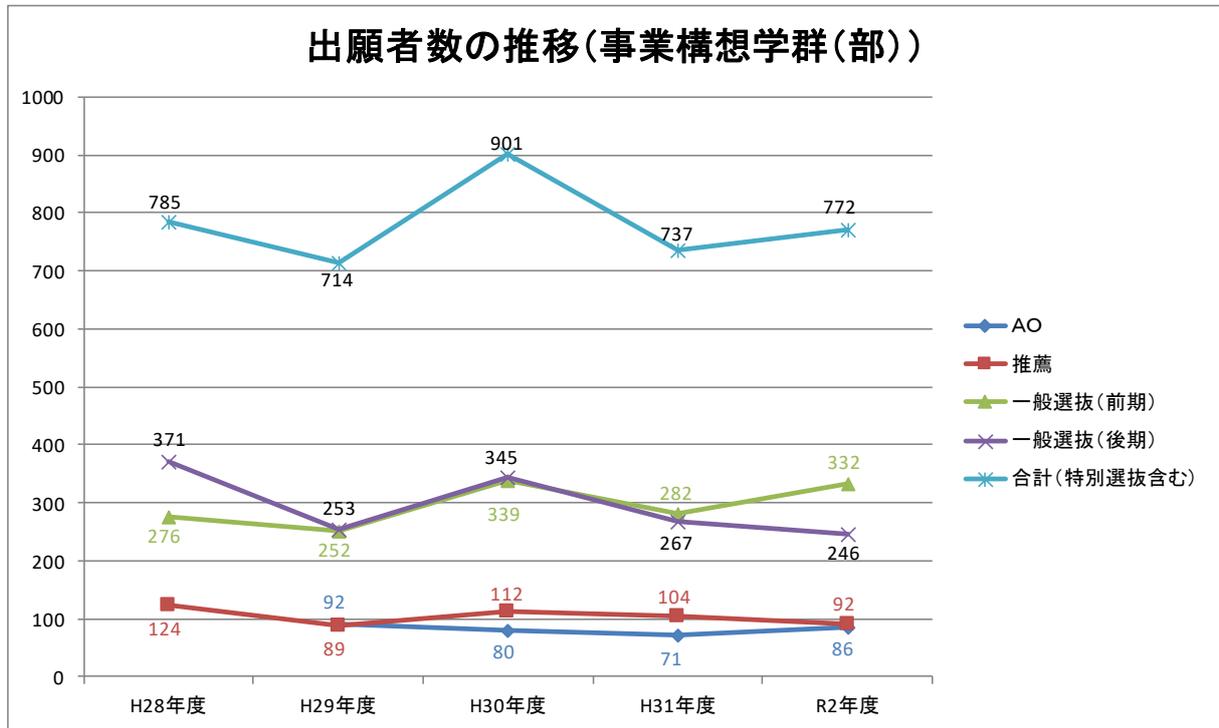
① 全学群（過去5年間の推移）



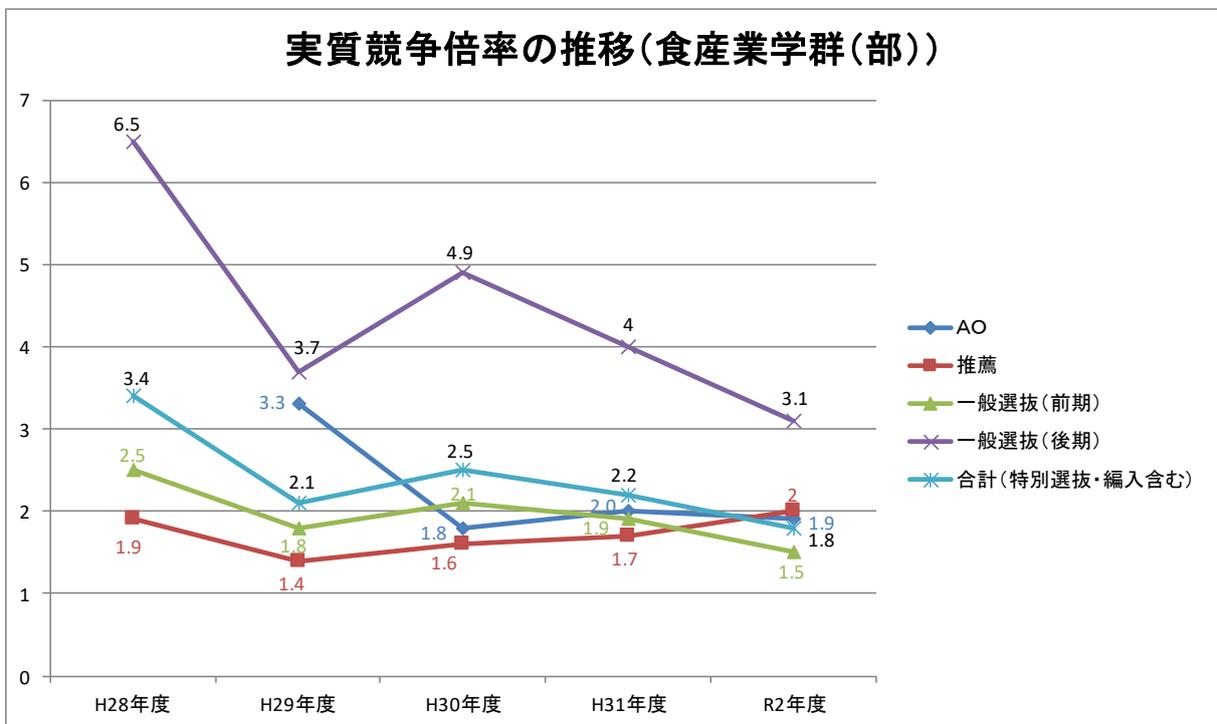
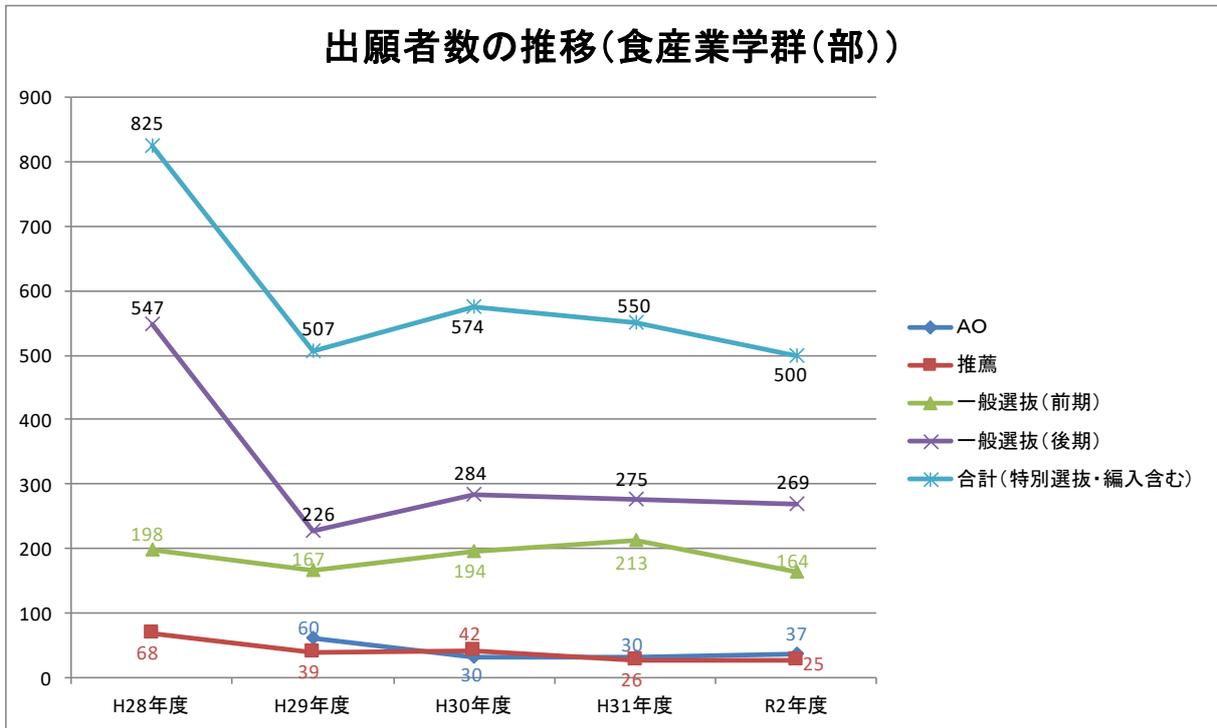
② 看護学群（過去5年間の推移）



③ 事業構想学群（過去5年間の推移）



④ 食産業学群（過去5年間の推移）



(3) 入学者の出身地・男女比の推移

令和2年度入学者選抜における入学者（全学群）の宮城県内比率は66.6%であり、ここ2年間と大きな変動はなかった。また、男女比率についても、男性31.2%、女性68.8%と大きな変動はなかった。

入学者の出身地を学群別にみると、宮城県内比率は、看護学群及び事業構想学群では前年度から変動はなかったが、食産業学群で54.2%と前年度から9%上昇した。また、男女比率については、前年度と比較して、事業構想学群で男性比率が約4%増加したものの、各学群とも大きな変動はなかった。

① 入学者の出身地及び男女比率（全学群）

	平成30年度入学者選抜						平成31年度入学者選抜						令和2年度入学者選抜					
	人数	構成比	うち男性の数	うち女性の数	男性比率	女性比率	人数	構成比	うち男性の数	うち女性の数	男性比率	女性比率	人数	構成比	うち男性の数	うち女性の数	男性比率	女性比率
宮城県	272	63.3%	105	167	38.6%	61.4%	287	63.8%	88	199	30.7%	69.3%	297	66.6%	106	191	35.7%	64.3%
東北(宮城県除く)	110	25.6%	16	94	14.5%	85.5%	101	22.4%	21	80	20.8%	79.2%	98	22.0%	21	77	21.4%	78.6%
東北以外・その他	48	11.2%	16	32	33.3%	66.7%	62	13.8%	24	38	38.7%	61.3%	51	11.4%	12	39	23.5%	76.5%
合計	430		137	293	31.9%	68.1%	450		133	317	29.6%	70.4%	446		139	307	31.2%	68.8%

② 入学者の出身地及び男女比率（学群別）

		平成30年度入学者選抜						平成31年度入学者選抜						令和2年度入学者選抜					
		人数	構成比	うち男性の数	うち女性の数	男性比率	女性比率	人数	構成比	うち男性の数	うち女性の数	男性比率	女性比率	人数	構成比	うち男性の数	うち女性の数	男性比率	女性比率
看護学群	宮城県	51	53.1%	3	48	5.9%	94.1%	72	72.0%	6	66	8.3%	91.7%	74	71.8%	5	69	6.8%	93.2%
	東北(宮城県を除く)	35	36.5%	1	34	2.9%	97.1%	25	25.0%	1	24	4.0%	96.0%	23	22.3%	2	21	8.7%	91.3%
	東北以外・その他	10	10.4%	1	9	10.0%	90.0%	3	3.0%	0	3	0.0%	100.0%	6	5.8%	0	6	0.0%	100.0%
	合計	96		5	91	5.2%	94.8%	100		7	93	7.0%	93.0%	103		7	96	6.8%	93.2%
事業構想学群	宮城県	155	74.2%	82	73	52.9%	47.1%	154	71.6%	62	92	40.3%	59.7%	152	71.7%	74	78	48.7%	51.3%
	東北(宮城県を除く)	44	21.1%	10	34	22.7%	77.3%	46	21.4%	14	32	30.4%	69.6%	43	20.3%	14	29	32.6%	67.4%
	東北以外・その他	10	4.8%	5	5	50.0%	50.0%	15	7.0%	8	7	53.3%	46.7%	17	8.0%	4	13	23.5%	76.5%
	合計	209		97	112	46.4%	53.6%	215		84	131	39.1%	60.9%	212		92	120	43.4%	56.6%
食産業学群	宮城県	65	52.0%	20	45	30.8%	69.2%	61	45.2%	20	41	32.8%	67.2%	71	54.2%	27	44	38.0%	62.0%
	東北(宮城県を除く)	31	24.8%	5	26	16.1%	83.9%	30	22.2%	6	24	20.0%	80.0%	32	24.4%	5	27	15.6%	84.4%
	東北以外・その他	29	23.2%	10	19	34.5%	65.5%	44	32.6%	16	28	36.4%	63.6%	28	21.4%	8	20	28.6%	71.4%
	合計	125		35	90	28.0%	72.0%	135		42	93	31.1%	68.9%	131		40	91	30.5%	69.5%

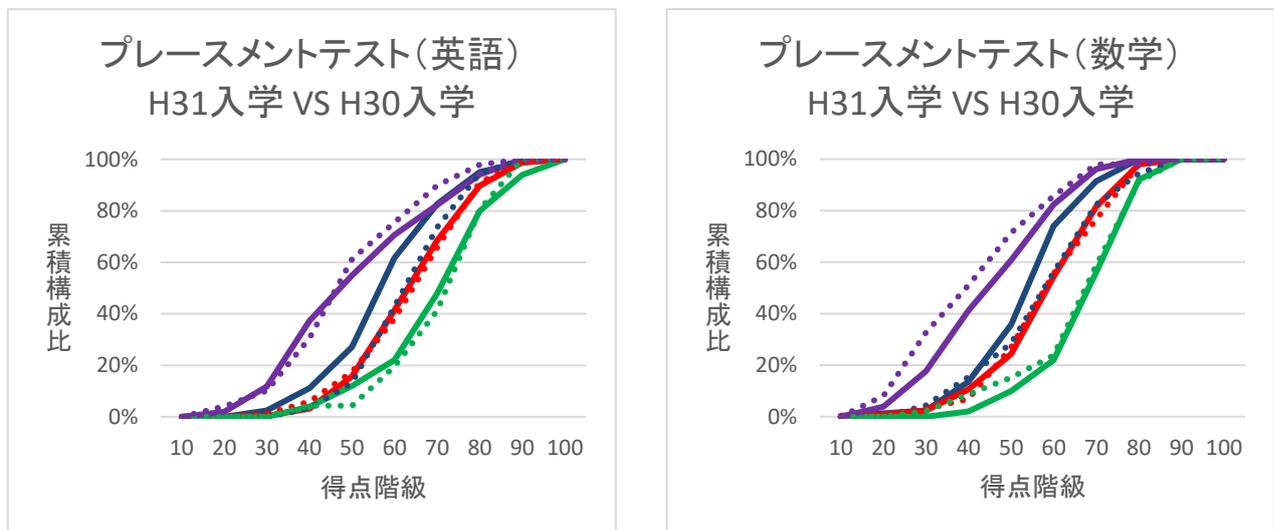
(4) 入学者の学力分布

令和2年度入学者に対するプレースメントテスト（高校までの学び確認試験）については、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年7月1日時点で実施できていないが、今後、状況を見ながら実施することとしている。

なお、以下のグラフは、平成31年度入学者と、入試制度変更後の平成30年度入学者及び入試制度改革直前の平成28年度入学者との成績分布（英語・数学）を比較したものであり、令和2年度入学者に対するプレースメントテストが実施された場合は、情報の更新を行うこととする。

① 入試区分別（H31 VS H30）

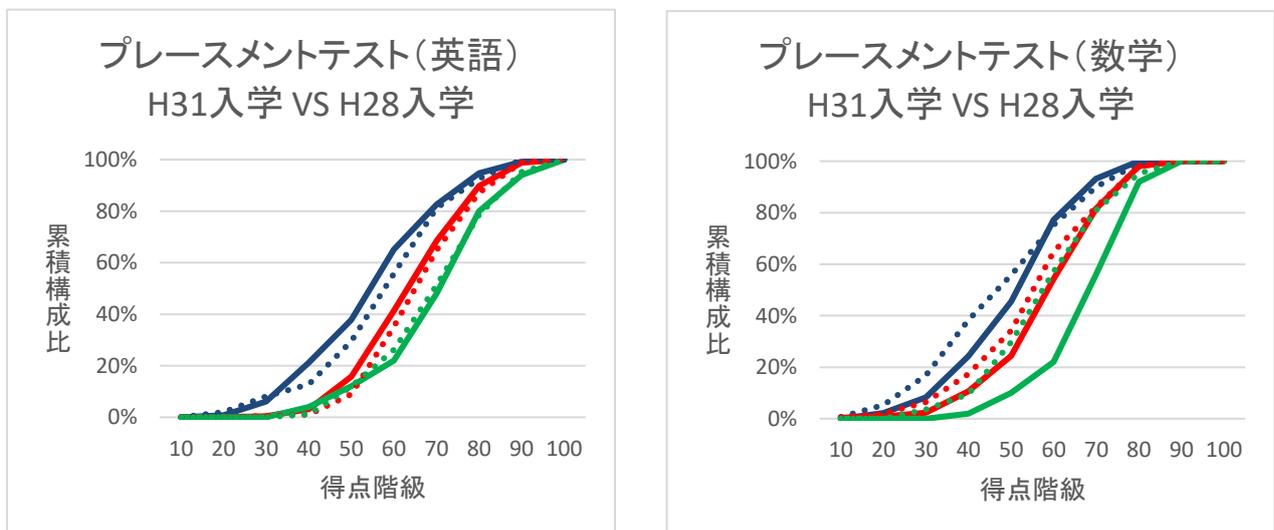
【凡例】 実線：H31年 破線：H30年 紫色 AO 藍色 推薦 赤色 前期 緑色 後期



H31 推薦:N=81 H31 前期:N=243 H31 後期:N=40 H31AO:N=52
H30 推薦:N=91 H30 前期:N=234 H30 後期:N=46 H30AO:N=49

② 入試区分別（H31 VS H28）（※推薦入試とAO入試を合わせて比較）

【凡例】 実線：H31年 破線：H28年 藍色 推薦+AO 赤色 前期 緑色 後期



H31 AO+推薦:N=132 H31 前期:N=254 H31 後期:N=50
H28 推薦:N=149 H28 前期:N=202 H28 後期:N=84

(5) 研究科入試の状況

令和2年度入学者選抜では、52名の募集定員に対し、39名の出願があり、37名の入学者となった。前年度との比較では、すべての研究科で博士前期課程の入学者が増加しており、看護学研究科では唯一定員を満たしたものの、博士後期課程については、定員を満たした研究科はなかった。

また、平成31年度入学者選抜より創設した事業構想学研究科と食産業学研究科の博士前期課程における「地方自治体派遣枠（推薦入試）」については、引き続き県内自治体に対して広報を重ねたが、令和2年度入学者選抜では出願には結びつかなかった。今年度も継続的な広報を続ける必要がある。

① 出願者数

		定員	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R02年度
看護学研究科	博士前期課程	10	12	10	13	8	14
	博士後期課程	3	3	2	6	3	1
事業構想学研究科	博士前期課程	20	13	13	11	9	11
	博士後期課程	3	2	3	1	2	2
食産業学研究科	博士前期課程	13	6	11	8	8	10
	博士後期課程	3	0	3	0	3	1
合計		52	36	42	39	33	39

② 実質競争倍率

		H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R02年度
看護学研究科	博士前期課程	1.1	1.1	1.4	1.2	1.1
	博士後期課程	1.0	1.0	1.5	3.0	1.0
事業構想学研究科	博士前期課程	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
	博士後期課程	1.0	1.0	1.0	1.0	2.0
食産業学研究科	博士前期課程	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
	博士後期課程	—	1.0	—	1.0	1.0
合計		1.0	1.0	1.2	1.1	1.1

③ 入学者数及び社会人受入状況

		H28年度		H29年度		H30年度		H31年度		R02年度		
		定員	入学者	入学者	入学者	入学者	入学者	入学者	入学者	定員超過率	うち社会人受入	
看護学研究科	博士前期課程	10	10	9	8	8	8	6	6	13	130.0%	10
	博士後期課程	3	2	2	—	4	—	1	—	1	33.3%	—
事業構想学研究科	博士前期課程	20	13	12	1	9	6	8	6	11	55.0%	6
	博士後期課程	3	2	3	—	1	—	2	—	1	33.3%	—
食産業学研究科	博士前期課程	13	6	10	1	7	1	8	0	10	76.9%	0
	博士後期課程	3	0	2	2	0	—	3	3	1	33.3%	0
合計		52	33	38	12	29	15	28	15	37	71.2%	16

2 教育の内容等

(1) 学士課程

① 基盤教育

学群・学類制に移行したカリキュラム改編時から、基盤教育科目の充実を図り、その科目の実施・運営を行う基盤教育群も同時に設置した。基盤教育の充実にあたっては、技法知・学問知・実践知修得のための全学共通必修科目群「フレッシュマンコア」を配置し、高校教育から大学教育への意識転換とコミュニケーションスキルやクリティカルシンキングなどの基礎的なスキルの修得により、専門教育への円滑な接続を図っている。

フレッシュマンコアの基幹科目（3学群共通科目）

科目	内容
スタートアップ・セミナー	25人のクラス単位で、コミュニケーションやディスカッションのスキルを身につけるとともに、自分の考えをプレゼンテーションやライティングの形で表現する方法を学ぶ。
アカデミック・セミナー	スタートアップ・セミナーでの学びを基にして、科学的に思考し説明する方法を学ぶ。他者と協働してアイデアを出し合いながら、自らの表現力を向上させる能力の育成を目指す。
社会の中で生きる	社会の一員として、幸福・正義・公正・人権などの観点から、社会がどのように構成されているのかを知り、自分が社会にどのように関わらなければならないかを集団討議も交えて考える。
地域フィールドワーク	地域に貢献できる人材の持つべき素養として地域（東北、宮城等）の自然・歴史・文化等を学びながら、地域の多様な人々や地域が抱える課題に目を向け、自らの「果たすべき役割」を考える。

② 特色ある教育内容

それぞれの教育課程の中では、専門分野特性に応じた特色ある教育内容が設定されており、例えば、看護学群では看護の実践力を身につけるとともに、看護マネジメントの視野を養う科目を配置し、事業構想学群では3つの学位課程に各2コースを、食産業学群では1学位課程に2学類各2コースを設けて専門性の深化を図るとともに、関連科目により幅広い視野での知識獲得を目指す教育体系を構築している。

災害への対応や地域社会に貢献できる人材育成を目指した教育プログラムとして、地域社会の担い手となる「コミュニティ・プランナープログラム」や「災害看護プログラム」、大学間連携教育プログラムとして、奈良県立大学と学生を相互に派遣し単位互換を行う連携プログラムの導入など、地域特性や本学の強みを活かした特色あるプログラムを導入している。また、産業界と大学との連携による実学教育の充実を目指す「産学連携講座」を開講し、平成30年度には3講座、令和元年度には2講座を開講している。学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する授業科目として、事業構想学群及び食産業学群を対象としたフレッシュマンコアの基幹科目「キャリアデザインⅠ」、各学群の専門基礎科目群における「キャリアデザインⅡ」、「キャリア開発Ⅰ～Ⅲ」のキャリア開発科目群のほか、インターンシップ科目群（インターンシップ・アドバンストコースを含む。）を配置しており、学群に入学した学生の学類選択から卒業後の進路選択まで一貫した支援を行っている。

主な教育科目とその内容

科 目	内 容
コミュニティ・プランナープログラム	地域の歴史・文化・資源を活かしたコミュニティづくりや、地域の人々とともに課題解決ができる人材の育成を目指し、兵庫県立大学と連携して構築・推進している教育プログラム
災害看護プログラム	宮城県におけるこれまでの地震災害や日本各地で災害が発生している現状を踏まえ、将来、医療・行政・学校等で活躍できる看護職となる基礎を養うプログラム
奈良県立大学との連携プログラム（単位互換）	宮城・奈良・アジアの学生による交流や協働学修を通して、地域や国際社会におけるリーダーの育成を目指し、奈良県立大学と連携して構築・推進している教育プログラム
産学連携講座	企業や団体と連携しながら社会で活躍するための知識と創造力を養うとともに、国と地域社会を支える産業の歴史や課題解決の取組みについて、直接企業から学ぶ。
インターンシップ・アドバンストコース	県内企業や自治体と協働して独自に開発した学外研修プログラム。実践を通じて「働くこと」の意義や役割を学び、自己の適性を見極めるとともに、早期に職業観を形成し、就労への価値意識や地域社会への理解を深める。

(2) 大学院課程

大学院の各研究科では、前期課程・後期課程とも講義・演習科目や論文指導科目を組み合わせ、履修する仕組みを取り入れており、学生に対して履修モデルを提示することにより、学年進行においてコースワークとリサーチワークのバランスの取れた学修が行われるよう配慮している。また、各研究科の前期課程においては、高度専門職業人育成に対応した実践的能力開発のためのプログラムを取り入れている。

現在の大学院教育課程は、従来の学部を基盤に設計されているため、学群制への移行に伴い、移行後の教育課程との整合性が課題になるとともに、各研究科とも定員を充足できない状況が続いていることから、教育課程の見直しが必要になっている。そのため、令和2年度の学群教育課程完成にあわせて、学群との連続性を確保するとともに、最近の社会ニーズと将来を見据えた教育課程再編の検討に着手している。

3 教育環境の整備

(1) ラーニングコモンズ

学生による主体的な学び（アクティブ・ラーニング）を促進する学修活動の場として、平成29年度からラーニングコモンズの整備に着手し、令和2年4月までに大和・太白両キャンパスにそれぞれ4つのコモンズ（スチューデントコモンズ、グローバルコモンズ、ディスカバリーコモンズ、データ&メディアコモンズ）が開設されている。

各コモンズには学修支援者としての学生スタッフが常駐し、コモンズを利用する学生に対し学修方法を教えることで主体的な学修を促す役割を果たしている。

また、令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症対策による遠隔講義の導入・実施に倣い、ウェブ上にteamsコモンズを立ち上げ、在宅で講義を受ける新入生の相談窓口として、遠隔での学修支援も行っている。

4つのラーニングコモンズ

種類	概要
スチューデントコモンズ	思い立った時に気軽にミーティングを開く、講義後、疑問点を友達とすぐに確認しあう、ゼミ仲間と飲み物を片手にリラックスしながらブレストを行うなど、飲食自由、机・椅子レイアウト変更自由な使い勝手のよいスペース
グローバルコモンズ	海外留学や語学試験などいつでも相談できるスタッフが常駐し、豊富な英語学習教材、ランゲージブース、語学練習可能なミーティングルーム、留学生が集うフリースペース、海外放送や海外雑誌が楽しめるスペースが設けられている
ディスカバリーコモンズ	約13万冊の蔵書を誇る図書館で横断的にリサーチしながら、その場でさまざまな課題について仲間たちと意見を交わしたり、ディスカッションすることができる、ミーティングスペースやフリースペースを備えたスペース
データ&メディアコモンズ ※太白：R3年度開設予定	4つのセクション（①オープスタディ（太白はアクティブラーニングスタジオ）、②デジタルリサーチ、③メディアシアター（大和のみ）、④サポートオフィス）から構成され、勉強や研究、制作活動などを行うための多様な支援を提供するスペース

(2) オープンスタジオ（PLUS ULTRA-）

大学と社会、地域との接点となり、産学・自治体・地域連携に向けた大学の機能を十分に発揮するため、平成30年度に交流棟2階メインスペースのリニューアルを行った。

名称を「PLUS ULTRA-」（プルスウルトラ。「さらなる前進」という意味）とし、視聴覚機器（大型モニター、スピーカー）等を常備することで多目的な使用を可能にして、地域交流のイベントやセミナー、研究成果のプレゼンテーション、デザインワークショップなど、大学が拠点となる社会的、対外的、教育研究的な活動を行う。

(3) 新棟（デザイン研究棟）

様々な資源を総合した価値の構築や、着想から実現、運用までのすべてのプロセスをデザインし、実践できる能力を養成することを目的に、デザイン研究棟を建設した（令和2年6月竣工。鉄骨造3階建て、建築面積約620㎡、延べ面積約1,730㎡）。

価値創造デザイン学類の教員研究室（15室）と、隣接して学生が研究や制作に集中できる「オープスタディ」スペースを各階に設置し、教員と学生と一緒にデザイン研究に取り組める環境を整備した。

また、インタラクティブなコンテンツ制作を行う「デザインラボ」、デジタルファブリケーション工場の「クリエイティブラボ」、ユーザーエクスペリエンスの実験を行う「行動観察室」など、専門的な研究・制作を行うラボも設置した。

4 留学生の受け入れ及び留学等の状況

(1) 留学生の受け入れ状況

外国人留学生入学者数は例年9名前後であり（「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ（ABEイニシアティブ）」を除く。）、国籍別では中国やベトナムを始めとするアジア出身が多い。平成26年度から平成29年度までは、国際協力機構（JICA）のABEイニシアティブによりアフリカ出身の博士前期課程学生が増加した。

表1. 所属別外国人留学生入学者数（過去4年間、各年度5月1日時点）

所属		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
学群	看護	0	1	0	0	1
	事業構想	5	4	6	2	19
	食産業	3	1	3	3	7
研究生	看護	0	0	0	0	0
	事業構想	0	0	0	0	1
	食産業	1	0	1	0	2
小計		9	6	10	5	30
大学院	看護	0	0	0	0	0
	事業構想	5	0	1	0	8
	食産業	1	1	0	1	4
小計		6	1	1	1	12
年度別合計		15	7	11	6	42

表2. 国籍別外国人留学生入学者数（過去4年間、各年度5月1日時点）

地域	国籍	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
アジア	中国	7	4	8	4	23
	ベトナム	1	2	1	1	5
	モンゴル	1	0	0	1	4
	韓国	0	0	1	0	1
	台湾	1	0	1	0	2
	マレーシア	1	1	0	0	1
	小計	11	7	11	6	36
アフリカ (ABE イニシア ティブ)	セネガル	2	0	0	0	2
	ルワンダ	1	0	0	0	1
	コンゴ民主共和国	0	0	0	0	1
	タンザニア	0	0	0	0	1
	ブルキナファソ	1	0	0	0	1
小計	4	0	0	0	6	
年度別合計		15	7	11	0	42

(2) 大学間国際交流協定の現状

海外協定締結数は、学生ニーズの高い英語圏の開拓に主として取り組み、令和2年5月1日現在で6か国、計10大学となっている。また、ベトナム・タイ以外の東南アジアの交流大学も順次開拓中である。学生交流として、交換留学や短期研修で毎年複数の協定校に学生を派遣しているが、交換留学生の受入れ実績は少なく、相互交流のアンバランスが課題となっている。

表3. 海外交流大学（令和2年5月1日時点）

国	大学名（略称）	締結年	協定内容			交流実績 （平成23年度以降）	
			学生交流	短期 研修 等	教員 交流		
			交換 留学				
タイ	キングモンクット工科大学トンブリ校 (KMUTT)	2010	○	○	○	2011年10月	事業構想学部生1名 交換留学 (1ターム ~2012.3)
						2014年09月	三石教員がKMUTT 研究交流訪問
						2019年06月	曾根教員が訪問し、英語科教員と研究交流
						2020年01月	国立研究開発法人科学技術振興機構が募集している「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）」に応募、採択され、先方の教員と学生を招聘（教員1名、学生2名）
ベトナム	フエ外国語大学 (HUFL)	2014		○	○	2013年～	リアル・アジア第3弾～第12弾で大学を訪問、先方の学生と交流会・フィールドワークを実施（担当：フェラン教員）
						2018年03月	川上学長が訪問
						2018年07月	先方の教職員及び学生とスカイプディスカッションを実施
	アンザン大学 (AGU)	2014		○	○	2013年～	リアル・アジア第4弾・第5弾で大学を訪問、先方の学生と交流会を実施（担当：フェラン教員）
	ドンタップ大学 (DThU)	2015		○	○	2015年～	リアル・アジア第6弾～第10弾で大学を訪問、先方の学生と交流会を実施（担当：フェラン教員）
						2016年05月	ドンタップ学長、大学関係者4名が本学特任教員2名（ユン、チャウ）とともに本学を表敬訪問
2016年09月						西垣学長が訪問	
米国	アーカンソー大学フォートスミス校 (UAFS)	2012	○		○	【交換留学生数（派遣）】	
						2012年	2名（事業構想2）
						2013年	2名（事業構想1, 食産業1）
						2014年	1名（事業構想1）
						2015年	2名（事業構想2）
						2016年	1名（事業構想1）
						2017年	2名（事業構想2）
						2020年	1名（事業構想1）（予定）
						【主な交流実績】	
						2011年08月	東日本大震災被災者支援としてUAFS及びフォートスミスコミュニティからの奨学金を得て、フルスカラーシップ（授業料、寮費、航空運賃、保険、食費、滞在費月額\$500）で事業構想学部生2名がBusiness Administration専攻で留学（~2012.5）
						2011年10月	Ray Wallace 副学長、スズキタケオ国際センター長来学 将来的な交流について意見交換
						2012年04月	弦本副学長、フェランセンター長UAFS訪問 交流について協議（学生相互派遣、教職員相互派遣、教育活動共同実施等）
						2012年05月	Beran 学長、Janice 学長夫人、Weidman Board of Visitors 議長、スズキタケオ国際センター長来学 一般協定締結
2012年05月	UAFS Bridge Scholar Program（長期交換留学プログラム）創設						
2012年10月	高校生英語スピーチコンテストUAFS後援 特別賞用賞品を提供						

					<p>2013年11月 笹井副学長，フェランセンター長，職員1名（若居）UAFS 訪問 学長表敬訪問，交流打合せ（Maymester 受入れ，今後の学生・教職員交流内容等），派遣学生との交流</p> <p>2013年02月 Maymester（夏季休暇中の特別授業期間）への受入れ打診 2週間プログラム，定員8名程度</p> <p>2013年05月 食産業学部交換留学生 Dean's List 受賞</p> <p>2014年06月 Beran 学長，スズキタケオ国際センター長来学 学長表敬訪問，2014年度派遣予定学生との懇談， 留学報告会・懇談会（UAFS 留学帰国生4名がプレゼン）， みちのく未来基金打合せを実施</p> <p>2016年03月 長屋副学長，教員2名（曾根，Wilson），職員1名（藤本） 訪問 学長表敬訪問，派遣プログラムの意見交換，協定の更新依頼， 本学から派遣している学生の状況確認・意見交換， Japan Club との交流などを実施</p>
英国	ロンドン・メトロポリタン大学 (LMU)	2014	○	○	<p>【受入実績】 約2週間デザインワークショップやフィールドワークを実施</p> <p>2014年 20名 2015年 19名</p> <p>【主な交流実績】</p> <p>2013年09月 中田教員ゼミ卒業生が LMU に留学したことを契機に交流に係る打診あり</p> <p>2013年11月 デザインワークショップのため Signy 氏，大学院生10数名来学</p> <p>2014年03月 高山理事，フェランセンター長，教員3名（岩堀，井上，中田），職員1名（佐藤尚志）が訪問 Robert Mull 建築学部長，Signy Svalastoga 副学部長，Anne Markey 氏（Director of CASS Projects），Marcus Bowerman 氏（Head of Technical Support），Chris Emmett 氏（Deputy Head of School of Design）と交流に向けた協議及び視察</p> <p>2014年03月 LMU 視察を経て今後の計画を検討 漆プロジェクトの英語版資料作成を土岐教員に依頼し，今後のコラボレーションの可能性について資料を作成</p> <p>2014年09月 Signy Svalastoga 副学部長来学 MOU 締結</p> <p>2014年11月 デザインワークショップのため Signy 氏，大学院生10数名来学。亀倉ギャラリーにてデザイン Work 発表会開催</p> <p>2019年08月 MOU 再締結</p>
					<p>【受入実績】 2013年 看護学生4名を短期で受入実績あり</p> <p>【交換留学生数（派遣）】</p> <p>2012年 3名（看護1，事業構想2） 2013年 3名（事業構想3） 2014年 4名（事業構想4） 2015年 4名（事業構想3，食産業1） 2016年 2名（看護1，事業構想1） 2018年 3名（看護1，事業構想2） 2019年 2名（事業構想2）</p> <p>【主な交流実績】</p> <p>2011年02月 R&D ユニット Perttu Heino 氏来学 学生交流（長期，短期）等交流について打合せを実施</p> <p>2011年08月 学生7名（事業構想3，食産業4）夏季 R&D インターンプログラム参加</p> <p>2011年10月 TAMK 副学長，看護学部教員2名，R&D ユニット研究員1名来学 看護学部実践看護英語演習及び留学生受入れ打合せ， 医療施設見学， 仙台フィンランド健康福祉センター見学， 被災地視察等</p>
					<p>【受入実績】 2013年 看護学生4名を短期で受入実績あり</p> <p>【交換留学生数（派遣）】</p> <p>2012年 3名（看護1，事業構想2） 2013年 3名（事業構想3） 2014年 4名（事業構想4） 2015年 4名（事業構想3，食産業1） 2016年 2名（看護1，事業構想1） 2018年 3名（看護1，事業構想2） 2019年 2名（事業構想2）</p> <p>【主な交流実績】</p> <p>2011年02月 R&D ユニット Perttu Heino 氏来学 学生交流（長期，短期）等交流について打合せを実施</p> <p>2011年08月 学生7名（事業構想3，食産業4）夏季 R&D インターンプログラム参加</p> <p>2011年10月 TAMK 副学長，看護学部教員2名，R&D ユニット研究員1名来学 看護学部実践看護英語演習及び留学生受入れ打合せ， 医療施設見学， 仙台フィンランド健康福祉センター見学， 被災地視察等</p>
					<p>【受入実績】 2013年 看護学生4名を短期で受入実績あり</p> <p>【交換留学生数（派遣）】</p> <p>2012年 3名（看護1，事業構想2） 2013年 3名（事業構想3） 2014年 4名（事業構想4） 2015年 4名（事業構想3，食産業1） 2016年 2名（看護1，事業構想1） 2018年 3名（看護1，事業構想2） 2019年 2名（事業構想2）</p> <p>【主な交流実績】</p> <p>2011年02月 R&D ユニット Perttu Heino 氏来学 学生交流（長期，短期）等交流について打合せを実施</p> <p>2011年08月 学生7名（事業構想3，食産業4）夏季 R&D インターンプログラム参加</p> <p>2011年10月 TAMK 副学長，看護学部教員2名，R&D ユニット研究員1名来学 看護学部実践看護英語演習及び留学生受入れ打合せ， 医療施設見学， 仙台フィンランド健康福祉センター見学， 被災地視察等</p>
					<p>【受入実績】 2013年 看護学生4名を短期で受入実績あり</p> <p>【交換留学生数（派遣）】</p> <p>2012年 3名（看護1，事業構想2） 2013年 3名（事業構想3） 2014年 4名（事業構想4） 2015年 4名（事業構想3，食産業1） 2016年 2名（看護1，事業構想1） 2018年 3名（看護1，事業構想2） 2019年 2名（事業構想2）</p> <p>【主な交流実績】</p> <p>2011年02月 R&D ユニット Perttu Heino 氏来学 学生交流（長期，短期）等交流について打合せを実施</p> <p>2011年08月 学生7名（事業構想3，食産業4）夏季 R&D インターンプログラム参加</p> <p>2011年10月 TAMK 副学長，看護学部教員2名，R&D ユニット研究員1名来学 看護学部実践看護英語演習及び留学生受入れ打合せ， 医療施設見学， 仙台フィンランド健康福祉センター見学， 被災地視察等</p>
					<p>【受入実績】 2013年 看護学生4名を短期で受入実績あり</p> <p>【交換留学生数（派遣）】</p> <p>2012年 3名（看護1，事業構想2） 2013年 3名（事業構想3） 2014年 4名（事業構想4） 2015年 4名（事業構想3，食産業1） 2016年 2名（看護1，事業構想1） 2018年 3名（看護1，事業構想2） 2019年 2名（事業構想2）</p> <p>【主な交流実績】</p> <p>2011年02月 R&D ユニット Perttu Heino 氏来学 学生交流（長期，短期）等交流について打合せを実施</p> <p>2011年08月 学生7名（事業構想3，食産業4）夏季 R&D インターンプログラム参加</p> <p>2011年10月 TAMK 副学長，看護学部教員2名，R&D ユニット研究員1名来学 看護学部実践看護英語演習及び留学生受入れ打合せ， 医療施設見学， 仙台フィンランド健康福祉センター見学， 被災地視察等</p>
					<p>【受入実績】 2013年 看護学生4名を短期で受入実績あり</p> <p>【交換留学生数（派遣）】</p> <p>2012年 3名（看護1，事業構想2） 2013年 3名（事業構想3） 2014年 4名（事業構想4） 2015年 4名（事業構想3，食産業1） 2016年 2名（看護1，事業構想1） 2018年 3名（看護1，事業構想2） 2019年 2名（事業構想2）</p> <p>【主な交流実績】</p> <p>2011年02月 R&D ユニット Perttu Heino 氏来学 学生交流（長期，短期）等交流について打合せを実施</p> <p>2011年08月 学生7名（事業構想3，食産業4）夏季 R&D インターンプログラム参加</p> <p>2011年10月 TAMK 副学長，看護学部教員2名，R&D ユニット研究員1名来学 看護学部実践看護英語演習及び留学生受入れ打合せ， 医療施設見学， 仙台フィンランド健康福祉センター見学， 被災地視察等</p>
					<p>【受入実績】 2013年 看護学生4名を短期で受入実績あり</p> <p>【交換留学生数（派遣）】</p> <p>2012年 3名（看護1，事業構想2） 2013年 3名（事業構想3） 2014年 4名（事業構想4） 2015年 4名（事業構想3，食産業1） 2016年 2名（看護1，事業構想1） 2018年 3名（看護1，事業構想2） 2019年 2名（事業構想2）</p> <p>【主な交流実績】</p> <p>2011年02月 R&D ユニット Perttu Heino 氏来学 学生交流（長期，短期）等交流について打合せを実施</p> <p>2011年08月 学生7名（事業構想3，食産業4）夏季 R&D インターンプログラム参加</p> <p>2011年10月 TAMK 副学長，看護学部教員2名，R&D ユニット研究員1名来学 看護学部実践看護英語演習及び留学生受入れ打合せ， 医療施設見学， 仙台フィンランド健康福祉センター見学， 被災地視察等</p>
					<p>【受入実績】 2013年 看護学生4名を短期で受入実績あり</p> <p>【交換留学生数（派遣）】</p> <p>2012年 3名（看護1，事業構想2） 2013年 3名（事業構想3） 2014年 4名（事業構想4） 2015年 4名（事業構想3，食産業1） 2016年 2名（看護1，事業構想1） 2018年 3名（看護1，事業構想2） 2019年 2名（事業構想2）</p> <p>【主な交流実績】</p> <p>2011年02月 R&D ユニット Perttu Heino 氏来学 学生交流（長期，短期）等交流について打合せを実施</p> <p>2011年08月 学生7名（事業構想3，食産業4）夏季 R&D インターンプログラム参加</p> <p>2011年10月 TAMK 副学長，看護学部教員2名，R&D ユニット研究員1名来学 看護学部実践看護英語演習及び留学生受入れ打合せ， 医療施設見学， 仙台フィンランド健康福祉センター見学， 被災地視察等</p>
					<p>【受入実績】 2013年 看護学生4名を短期で受入実績あり</p> <p>【交換留学生数（派遣）】</p> <p>2012年 3名（看護1，事業構想2） 2013年 3名（事業構想3） 2014年 4名（事業構想4） 2015年 4名（事業構想3，食産業1） 2016年 2名（看護1，事業構想1） 2018年 3名（看護1，事業構想2） 2019年 2名（事業構想2）</p> <p>【主な交流実績】</p> <p>2011年02月 R&D ユニット Perttu Heino 氏来学 学生交流（長期，短期）等交流について打合せを実施</p> <p>2011年08月 学生7名（事業構想3，食産業4）夏季 R&D インターンプログラム参加</p> <p>2011年10月 TAMK 副学長，看護学部教員2名，R&D ユニット研究員1名来学 看護学部実践看護英語演習及び留学生受入れ打合せ， 医療施設見学， 仙台フィンランド健康福祉センター見学， 被災地視察等</p>

					2011年10月	2nd Joint Symposium of TAMK - Miyagi University 開催 10/28 13:30-17:45 @大和大会議室 スピーカー：弦本副学長, Karttunen 副学長, 教員9名 (関戸, 高橋方子, Yli-Koivisto, Keiski, Salin, 小野, 萩原, 富樫, 平岡), 小笠原氏 (フィンランドセンター)
					2012年08月	学生6名(事業構想5, 食産業1) 夏季R&D インターンプログラム参加
					2013年03月	フェラン国際交流・留学生センター長訪問 International Service スタッフとの打合せ, 派遣学生との交流, 学長・副学長表敬訪問, 研究開発教育サービススタッフとの打合せ, 看護学部との打合せ等
					2013年08月	学生4名(事業構想2, 食産業2) EU-Russian Summer Study Program - Understanding the European Union and Doing Business in Russia- 参加
					2013年09月	フェラン国際交流・留学生センター長, 吉田看護学部長, 教員2名(小野, 平木) 訪問 大学間連携の検討, 大学院視察, 交換留学派遣生との交流等
					2013年09月	TAMK 主催教育セミナー参加 発表者①: 小野教員 "Nursing to support the integration of the life of the elderly people in the place of the sanatorium type medical care facilities for elderly person." 発表者②: 吉田学部長 "Disaster Relief Activities of Miyagi University School of Nursing for the recovery from the Great East Japan Earthquake"
					2013年09月	TAMK 主催シンポジウム "Active Ageing - Good Practices and Operations Models in Europe"参加 発表者: 平木教員 "Recognition and Problems on Dementia in Japan. Activities that Older People in Japan Work on to Prevent Dementia"
					2014年08月	学生10名(事業構想6, 食産業4) TAMK Summer School Program - European-Russian Tourism Business-参加
					2014年08月	科研費による共同研究打合せ, 教員2名(小野, 河原畑), 大学院前期課程学生訪問(先方窓口はシルパ教員)
					2015年08月	学生12名 TAMK Summer School Program, 曾根教員引率(Tampere, Finland 及び St. Petersburg, Russia)
					2016年11月	TAMK より人事担当者, 看護系教員など4名が本学訪問(2日間)
					2017年11月	TAMK よりロボット工学研究者, 看護系教員などが本学訪問
					2018年05月	Hackathon 開催 TAMK 学生5名, TUAS 学生9名, 本学学生13名が参加(フェラン教員担当)
					2018年06月	MOU 再締結
						【受入実績】
					2019年	2名受入れを実施
						【交換留学生数(派遣)】
					2017年	1名(食産業1)
					2019年	1名(事業構想1)
						【主な交流実績】
					2016年02月	Juha Kontio 氏と Elina Kontio 氏が来学。MOU 締結の意向あり
					2016年05月	MOU 締結(宮城大学にて調印式実施)
					2016年09月	Vesa Taatila 学長, Juha Kontio 教員, Janne Roslöf 教員, Anne Norström 教員が来学。(表敬訪問)
					2018年05月	Hackathon 開催 TAMK 学生5名, TUAS 学生9名, 本学学生13名が参加(フェラン教員担当)
					2019年12月	Student Exchange Programme Agreement を締結
トウルク応用科学大学 (TUAS)	2016	○	○	○		

オーストラリア	ロイヤルメルボルン工科大学 (RMIT)	2009 (2019)	○	○	○	2006年04月	豪日交流基金より2006 Sir Neil Currie Curriculum Development Award 受賞, RMIT とのコンタクトを開始				
						2006年08月	三石教員がメルボルンを訪問, Dean/Professor Peter Coloe と協定の可能性について打合せを行い, 講演を実施				
						2007年01月	MOU 締結				
						2008年04月	Peter Coloe 氏による特別講演実施(太白)				
						2009年02月	菰田教員を RMIT へ客員研究員として1年間派遣				
						2009年09月	第1回講演(ジョイントシンポジウム)を実施(太白)				
						2009年12月	第2回ジョイントシンポジウムをメルボルンで実施。宮城大学側からは馬渡学長以下5名が渡豪, ここで先方学長とともに協定締結				
						2010年03月	第1回春季海外研修として本学学生が RMIT 訪問				
						2010年08月	第3回ジョイントシンポジウムを実施(太白)				
						2010年11月	RMIT より短期客員研究員 (Dr. Emily Gan) 来日				
						2011年03月	第2回春季海外研修として本学学生が RMIT 訪問				
						2011年03月	第2回海外研修(英語講義受講生宮城大学奨励基金対象)				
						2011年12月	第4回ジョイントシンポジウムをホーチミン・シティで実施				
						2012年09月	三石教員が, 豪州政府より Endeavor Executive Award 受賞, 2カ月間 RMIT 滞在, 講演を実施				
						2012年03月	第3回海外研修(豪州首相日本対象教育支援プログラム-震災復興支援-奨学金受給)				
						2018年08月	曾根教員が訪問				
						2019年03月	MOU 再締結				
						サザンクロス大学 (SCU)	2019	○	○	2018年08月	教員2名(塩野, 曾根)が訪問
										2019年03月	MOU 締結
	2018年09月	リアル・オーストラリア(短期研修)6名(事業4, 食産2)									
2019年08月	国際看護プログラム 学生4名参加。教員2名(塩野, 松永)が引率										
2019年09月	リアル・オーストラリア(短期研修)11名(事業6, 食産5)										

(3) 海外派遣の状況

一般交流協定に基づく交換留学，リアル・アジア等により毎年 30 名前後の学生を海外に派遣している（ただし，令和元年度においては，新型コロナウイルスの影響により，リアル・アジアの派遣を中止。）。リアル・アジア（短期研修）は平成 25 年度より，協定校交換留学については平成 26 年度より日本学生支援機構海外留学支援制度の給付型奨学金プログラムとして採択され，一定の家計・成績要件を満たす派遣学生に対し奨学金を支給し，経済的負担を軽減させている。その他，学務課において日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣）や官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～等の外部奨学金の申請サポートを行い，支援を行っている。また，平成 30 年度から「リアル・オーストラリア」（短期語学・多文化理解促進研修）を新たに実施し，宮城大学学習奨励基金より，学修奨励支援（令和元年度実績：11 人×7 万円＝77 万円）を行った。

派遣費用が全額自己負担となるプログラムの中には派遣実績が伸び悩むものもあるため，今後は費用の面での支援も含めプログラムを検討する必要がある。

表 4. 海外派遣者数（過去 4 年間）※1

プログラム	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	備考
協定校交換留学 (5 か月間もしくは 10 か月間)	3	3	3	3	
リアル・アジア (短期研修：約 2 週間)	25	24	15	0	R1 は新型コロナウイルスの影響により中止
総合実習（ベトナム） (看護学部専門科目：約 1 週間)	5	-	-	-	H29 以降は廃止※2
実践看護英語演習 (看護学部専門科目：約 2 週間)	5	3	-	4	
リアル・オーストラリア (短期語学・多文化理解促進 研修：約 2 週間)	-	-	6	11	
トビタテ！留学 JAPAN 日本 代表プログラム	5	1	3	2	

※1 派遣者数は，各年度中（4 月 1 日～翌年 3 月 31 日）に渡航を開始した人数

※2 平成 29 年度以降，国際看護プログラムの立ち上げに伴い，実践看護英語演習やリアル・アジア等の選択科目で海外研修が可能となったことから，必修科目の総合実習で海外実習を行う必要性がなくなったため廃止

5 休退学の状況

(1) 休退学の推移

休学者数は、海外渡航等の積極的理由を除いて毎年20名前後、退学は15名前後で推移している。休退学の理由は各学群（部）で差異がみられる。看護学群（部）では、成績不振等（必修科目不可による留年）による休学、進路変更等（看護学実習への不適合、不本意入学）による退学が多い。事業構想学群（部）では、成績不振に伴う休学、進路変更等（学習内容と入学前のイメージや適性との違い）による退学が多い。食産業学群（部）では心の問題等に伴う休退学が多い。

休退学に至るまでには、例えば「成績不振による留年→生活費・学費を稼ぐためのアルバイト→授業欠席や入学年違いによる孤立→成績不振」といった悪循環など、複数の要因がからみ合ってくる。問題を抱える学生に対し、教務部門と学生支援部門の教職員の連携を強化すべく、チュードントサービスセンターを立ち上げ、保健室・学生相談室を含む健康支援室、各学群のワーキング・グループの連携により、休退学者の減少に向けた早期の対応を行っている。

【凡例】

1 成績不振等	学力不足、留年のため前期または後期に履修科目なし、就職浪人、在学期間満了等
2 進路変更等	不本意入学、学修意欲喪失、他大学受験、資格取得、学外団体での活動、就職等
3 心の問題等	グループワーク等で居場所喪失、体調不良、アレルギー疾患を含むメンタル面の疾患等
4 からだの問題等	病気等の内部障がい、けが、妊娠・出産・育児等
5 経済事情等	父母(家庭)の経済状態悪化、休学してアルバイト等
6 海外渡航等	留学、海外インターンシップ、ワーキングホリデー、海外語学研修、「絆プロジェクト」参加等

注：退学者数には退学年度に休学していた者を含む。休学者数からは同年度に退学に至った者を除く。

【全学】(6 海外渡航等は合計に含まない。)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	休学	退学	休学	退学	休学	退学	休学	退学
1 成績不振等	4	3	7		7		8	2
2 進路変更等	6	14	2	12	4	15	8	7
3 心の問題等	6	3	4		3		5	2
4 からだの問題等	2		4		1		1	
5 経済事情等		1	1	1	2	3	1	1
6 海外渡航等	(10)		(8)		(6)		(11)	
合計	18	21	18	13	17	18	23	12

【看護学部・学群】(6 海外渡航等は合計に含まない。)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	休学	退学	休学	退学	休学	退学	休学	退学
1 成績不振等	4		3		3		2	
2 進路変更等	1	2		1	1	2	3	1
3 心の問題等	2		1				2	
4 からだの問題等			1					
5 経済事情等		1				1		
6 海外渡航等					(1)		(2)	
合計	7	3	5	1	4	3	7	1



【事業構想学部・学群】(6 海外渡航等は合計に含まない。)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	休学	退学	休学	退学	休学	退学	休学	退学
1 成績不振等		3	4		3		6	2
2 進路変更等	3	8		6	3	6	5	6
3 心の問題等	3	2	2		1		1	1
4 からだの問題等	1		1		1		1	
5 経済事情等			1	1	1	2	1	
6 海外渡航等	(5)		(4)		(4)		(6)	
合計	7	13	8	7	9	8	14	9

【食産業学部・学群】(6 海外渡航等は合計に含まない。)

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	休学	退学	休学	退学	休学	退学	休学	退学
1 成績不振等					1			
2 進路変更等	2	4	2	5		7		
3 心の問題等	1	1	1		2		2	1
4 からだの問題等	1		2					
5 経済事情等					1			1
6 海外渡航等	(5)		(4)		(1)		(3)	
合計	4	5	5	5	4	7	2	2

6 卒業生満足度調査の結果

(1) 調査概要

大学運営や施設等の改善検討に関する基礎資料とするため、卒業生・修了生を対象に学生生活満足度調査を実施している。例年、調査は卒業証書・学位記授与式の当日に記入・回収しているが、令和元年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、卒業証書・学位記授与式が中止となったため、ウェブ上のフォームを用いて調査を行ったところ、回収率は10%程度となった。

全42問のうち、学びや施設等に関する項目についての集計結果を示す（年度の表示がないものは令和元年度の回答数値）。ここで、満足度は「分からない」と回答した数を除いた回答数に対して「満足・ある程度満足」と回答した割合である（90%以上を緑字、60%未満を赤字で表している）。

(2) 学びの満足度と大学への総合的な満足度

全学で、80～90%前後の高い数値を確保しているが、事業構想学部事業計画学科では、すべての項目において60～75%程度となっており、満足度が比較的低めである。

調査項目	年度	看護	事業計画	デザイン情報	食産業	全学
大学に対する満足度	H30	86.4%	83.3%	80.0%	88.8%	84.9%
	R1	93.3%	62.5%	71.4%	87.5%	82.6%
所属学科での学習到達度	H30	97.7%	89.1%	83.2%	92.8%	90.7%
	R1	93.3%	75.0%	85.7%	93.8%	89.1%
所属学科に対する満足度	H30	95.5%	89.1%	82.1%	94.4%	90.5%
	R1	86.7%	75.0%	85.7%	93.8%	87.0%

(3) 事務局等の対応等

大学・所属学科等に対する満足度が高い看護学部・食産業学部では、事業構想学部と比較して全般的に高評価である。

事業構想学部において事務局での待ち時間や職員の対応の満足度が低めである要因として、学生数に対する事務局窓口や職員数が相対的に少ないことが反映されていると考えられる。

調査項目	看護	事業計画	デザイン情報	食産業	全学
事務局 待ち時間の満足度	93.3%	75.0%	85.7%	86.7%	86.7%
事務局 職員の対応	93.3%	57.1%	71.4%	66.7%	75.0%
保健室 利用の有無	60.0%	37.5%	71.4%	68.8%	60.9%
(利用有と回答した方) 利用しやすさ	87.5%	100.0%	75.0%	100.0%	92.0%
学生相談室 利用の有無	33.3%	12.5%	28.6%	37.5%	30.4%
(利用有と回答した方) 利用しやすさ	100.0%	100.0%	100.0%	83.3%	92.3%
キャリア開発室 相談しやすさ	92.3%	83.3%	50.0%	69.2%	77.8%
サークル活動への大学の対応	100.0%	85.7%	85.7%	50.0%	75.8%
ボランティア活動への大学の対応	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(4) 施設環境・教室の環境等

教室環境については、両キャンパスともに明るさに対する満足度が高い一方、温度環境に対する満足度が低い。アンケート項目にはないが、冷暖房の稼働期間前後の暑さや寒さを訴える声が非常に多い。教室のゆとりは大和キャンパスにおいて満足度が低い傾向にあるが、これは、教室定員ぎりぎりまで学生を収容せざるを得ない授業科目が多いためと考えられる。

図書館環境については、利用しやすさや明るさ、音環境への満足度は高いものの、専門図書数に対する満足度は低い傾向にある。

学生ラウンジや、駐車場・駐輪場の収容台数については、両キャンパスで比較的満足度が高めである。

食堂のゆとりについては、両キャンパスにおいて満足度が低い。また、項目にはないが、大和キャンパスのカフェテリアは冬期の寒さ対策としてシャッターを下ろしているものの、寒いという声も聞かれる。

調査項目	看護	事業計画	デザイン情報	食産業	全学
教室の明るさ	93.3%	100.0%	100.0%	93.8%	95.7%
教室の音環境	80.0%	75.0%	85.7%	64.3%	75.0%
教室の温度	40.0%	50.0%	28.6%	50.0%	43.5%
教室環境のゆとり	57.1%	85.7%	57.1%	85.7%	71.4%
図書館の専門図書の数	86.7%	83.3%	85.7%	93.8%	88.6%
図書館の利用しやすさ	86.7%	100.0%	71.4%	100.0%	91.1%
図書館の明るさ	71.4%	87.5%	100.0%	93.8%	86.7%
図書館内の音	86.7%	100.0%	100.0%	92.3%	93.0%
コンピュータ設備の設備数	66.7%	100.0%	71.4%	71.4%	75.0%
コンピュータ設備の利用しやすさ	86.7%	75.0%	14.3%	80.0%	71.1%
学生ラウンジの明るさ	92.3%	71.4%	100.0%	92.3%	89.7%
学生ラウンジの利用しやすさ	92.3%	71.4%	100.0%	100.0%	92.5%
学生ラウンジのゆとり	76.9%	85.7%	100.0%	83.3%	84.2%
食堂のゆとり	58.3%	37.5%	28.6%	40.0%	42.9%
駐車場・駐輪場の収容台数	50.0%	83.3%	80.0%	100.0%	76.7%

7 進学及び就職の状況

(1) 進学状況

令和元年度卒業生の大学院進学者は18名で、うち14名が本学大学院への進学であった。例年10～20名前後が大学院へ進学し、そのうち約半数は他大学へ進学している。

○卒業生の進学者数（過去4年間）

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	大学院	その他	大学院	その他	大学院	その他	大学院	その他
看護学部	0(0)	3	1(0)	3	1(0)	0	1(1)	6
事業構想学部	11(6)	1	7(3)	1	5(1)	0	6(5)	0
事業計画学科	1(1)	0	2(1)	0	0(0)	0	2(1)	0
デザイン情報学科	10(5)	1	5(2)	1	5(1)	0	4(4)	0
食産業学部	8(4)	0	8(3)	1	5(4)	0	11(8)	0
ファームビジネス学科	3(2)	0	3(2)	1	4(3)	0	6(5)	0
フードビジネス学科	4(1)	0	3(1)	0	1(1)	0	1(1)	0
環境システム学科	1(1)	0	2(0)	0	0(0)	0	4(2)	0
全学計	19(10)	4	16(6)	5	11(5)	0	18(14)	6

※1 大学院進学者のうち、本学大学院進学者数をカッコ内に表示

※2 看護学部でその他へ進学の者は、大学専攻科及び専修学校の助産師課程へ進学

※3 平成29年度看護学部の大学院進学者は、他大学大学院の助産師課程へ進学

(2) 就職状況

① 就職率の推移

全学での就職率は99.7%（令和2年5月1日現在）であり、厚生労働省と文部科学省が共同でとりまとめた全国調査結果98.0%（文部科学省6月12日発表）より高い就職率を維持している。

○卒業生の就職率（過去4年間）

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
看護学部	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
事業構想学部	98.9%	100.0%	100.0%	99.4%
事業計画学科	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%
デザイン情報学科	98.9%	100.0%	100.0%	98.8%
食産業学部	99.2%	100.0%	100.0%	100.0%
ファームビジネス学科	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
フードシステム学科	98.1%	100.0%	100.0%	100.0%
環境システム学科	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
全学計	99.3%	100.0%	100.0%	99.7%
全国（参考）	97.6%	98.0%	97.6%	98.0%

※就職率は、就職希望者に占める就職者の割合。

② 学部別・出身地別の就職先

令和元年度卒業生の採用企業・機関等の本社所在地による県内就職率は、看護学部 70.3%、事業構想学部 33.7%、食産業学部 19.5%で、全学では 38.0%であった。例年、40%台前半に推移していたが、令和元年度卒業生においては 40%弱とやや低い県内就職率となっている。

なお、採用時の勤務地による県内就職率は、看護学部 70.3%、事業構想学部 51.1%、食産業学部 20.3%となり、全学では 46.3%となっている。

○卒業生の県内就職率（過去 4 年間）

	出身	就職先	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
看護学部	県内出身者	県内	55.8%	50.0%	47.8%	46.1%
		県外	13.7%	9.3%	13.3%	11.0%
	県外出身者	県内	10.5%	15.1%	16.7%	24.2%
		県外	20.0%	25.6%	22.2%	18.7%
事業構想学部	県内出身者	県内	33.0%	35.1%	30.9%	26.5%
		県外	43.7%	30.8%	36.1%	39.8%
	県外出身者	県内	4.3%	10.8%	9.8%	7.2%
		県外	19.1%	23.2%	23.2%	26.5%
食産業学部	県内出身者	県内	21.8%	13.1%	29.0%	11.9%
		県外	21.8%	25.4%	22.6%	34.7%
	県外出身者	県内	7.3%	6.6%	11.3%	7.6%
		県外	49.2%	54.9%	37.1%	45.8%
全学	県内出身者	県内	34.9%	31.6%	35.9%	26.7%
		県外	29.9%	24.4%	24.0%	31.5%
	県外出身者	県内	6.6%	10.4%	12.6%	11.3%
		県外	28.5%	33.6%	27.5%	30.5%

※就職先地域は本社所在地により県内・県外に分類

③ 公務員試験合格者数（学部のみ）（過去 4 年間）

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
看護学部	保健師	10	9	8	12
	養護教諭	8	1	1	3
事業構想学部		10	11	15	8
食産業学部		10	13	15	15

※公務員試験合格も民間企業への進路を選択した者も含む。

④ 研究科の就職率（過去 4 年間）

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
前期課程	看護学研究科	対象者なし	対象者なし	100.0%	対象者なし
	事業構想学研究科	100.0%	100.0%	71.4%	100.0%
	食産業学研究科	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
後期課程	看護学研究科	対象者なし	対象者なし	対象者なし	対象者なし
	事業構想学研究科	対象者なし	対象者なし	対象者なし	対象者なし
	食産業学研究科	100.0%	対象者なし	対象者なし	対象者なし

Ⅲ 研究の状況について

1 外部研究資金の獲得状況

外部研究資金（受託研究，共同研究，補助金事業，奨学寄附金，科学研究費補助金，その他研究助成金）は，平成 21 年度の法人化直後には目標に達しなかったが，震災復興関連の研究が増えたことから，平成 23 年度から平成 26 年度までは目標を上回る額を獲得した。

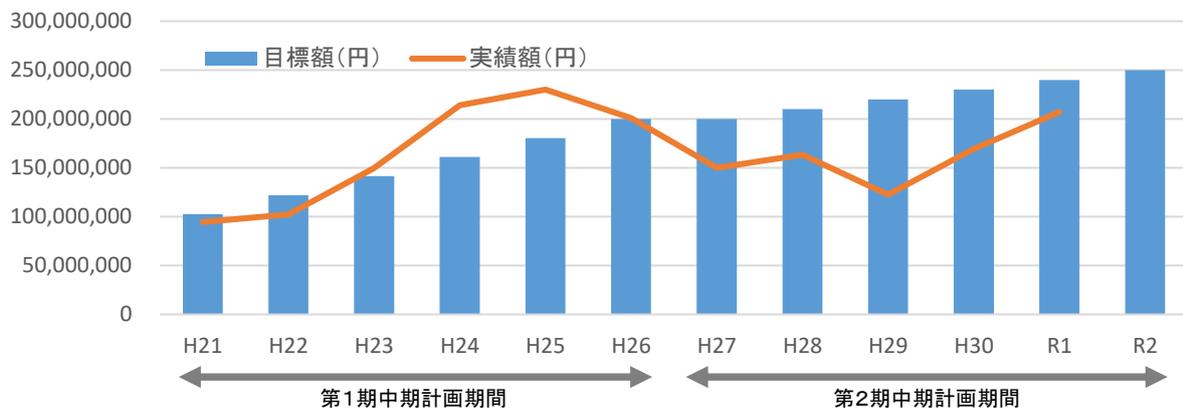
平成 25 年度をピークに獲得額は減少し，平成 27 年度から目標額を下回る状況が続いているが，令和元年度は大型の補助金事業や科学研究費補助金の獲得により，第 2 期中期計画期間では初めて 2 億円を超える外部資金を獲得した。

【第 1 期中期計画期間】

	H21	H22	H23	H24	H25	H26
目標額 (円)	102,500,000	122,000,000	141,500,000	161,000,000	180,500,000	200,000,000
実績額 (円)	94,475,966	102,290,842	149,660,200	214,125,001	230,036,467	200,886,203
達成率	92.2%	83.8%	105.8%	133.0%	127.4%	100.4%

【第 2 期中期計画期間】

	H27	H28	H29	H30	R1	R2
目標額 (円)	200,000,000	210,000,000	220,000,000	230,000,000	240,000,000	250,000,000
実績額 (円)	149,885,467	163,249,999	122,716,145	169,421,005	207,067,791	
達成率	74.9%	77.7%	55.8%	73.7%	86.3%	0.0%



2 特別研究費等（学内研究費）の実施状況

(1) 配分状況

教員の申請に基づき，研究計画を審査の上，特別研究費・海外研究費等を配分している。

令和元年度は，研究の実施方針の策定に伴い，学内研究費及び研究種目の見直しを行った。各研究種目において研究の方針に基づく審査による配分を行い，中でも，「特認研究（学長裁量経費）」については，大学を代表する研究の掘り起こしを目的に，6 件の研究課題を採択し，研究費 14,000 千円を配分した。さらに，IPPO IPPO NIPPON の寄附金を活用した寄付金研究費について，被災地の産業振興に資する研究 4 件に研究費 6,500 千円を配分し

た。採択された研究課題の題目は次のとおり。

【特認研究】

- ・嗜好性、機能性および大量生産性を兼ね備えた「昆虫食」に関する基盤研究
- ・水圏植物資源開発に向けた重力を介した植物生長制御解明
- ・サケ胃由来グレリンの機能性食品開発
- ・DNA マーカーによる宮城型超多収イネ品種選抜技術の開発
- ・「地域創生学」の構築と地域創生への取り組みの可視化
- ・宮城県内に生息する節足動物が媒介する新興感染症の病原体調査と防除のためのアプローチ

【寄付金研究費（IPPO IPPO NIPPON 震災復興特別枠）】

- ・REBORN ART FESTIVAL における域学連携モデルの検討・構築に係る実践研究
- ・「北限のオリーブ」の生育環境とオリーブを活用した復興の土地利用に関する研究
- ・閑上赤貝のブランド支援～非破壊検査による身色選別法の開発～
- ・石巻産ムール貝の利用に関する研究

(年度別特別研究費等配分状況)

		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
特別研究費	指定研究		13件	19件	20件	18件	27件	39件	49件	40件
			8,050千円	11,600千円	12,510千円	12,371千円	16,260千円	24,636千円	26,359千円	17,180千円
	震災復興（発展）特別研究	15件	16件	17件	12件	5件	9件	9件	6件	10件
		10,200千円	10,950千円	10,300千円	6,430千円	4,127千円	6,232千円	5,796千円	4,156千円	4,800千円
産学連携・地域貢献促進研究		3件	0件	0件	0件	0件	4件	4件	3件	4件
		6,000千円	0千円	0千円	0千円	0千円	2,870千円	3,395千円	2,100千円	1,630千円
特認研究（学長裁量経費）							4件	7件	6件	6件
							22,486千円	19,790千円	13,840千円	14,000千円
寄附金研究費（IPPO IPPO NIPPON 震災復興特別枠）								1件	5件	4件
								1,000千円	7,540千円	6,500千円
国際研究費		0件	0件	3件	0件	0件	3件	2件	2件	2件
		0千円	0千円	1,600千円	0千円	0千円	1,935千円	1,883千円	1,360千円	950千円
合計		18件	29件	39件	32件	23件	47件	62件	71件	66件
		16,200千円	19,000千円	23,500千円	18,940千円	16,498千円	49,783千円	56,500千円	55,355千円	45,060千円

(2) 研究交流フォーラム

本学教員が所属の枠を超え、互いに研究内容について知見を広げ、研究の活性化を推進することを目的に研究交流フォーラムを平成 26 年度から開催している。

令和元年度は、口頭発表、ポスター発表、誌面発表を合わせて合計 74 件の発表を行ったほか、学外の研究機関との研究交流を促進するため、研究発表の冒頭で、学外の研究者と本学の教員が取り組んだ大型の共同研究について、共同研究者（北海道大学大学院 藤田知道教授）を招いた講演を実施した。

	口頭発表	ポスター発表	誌面発表	発表数計
H26	8 件	—	—	8 件
H27	3 件	10 件	—	13 件
H28	1 件	21 件	—	21 件
H29	3 件	30 件	—	33 件
H30	2 件	30 件	37 件	69 件
R1	3 件	35 件	36 件	74 件

(3) 宮城大学研究フォーラム

「宮城大学研究フォーラム&第九コンサート」を12月に開催し、特別推進研究の成果を発表し、本学の研究成果を広くアピールした。

3 研究倫理研修会

国の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」の制定、及び「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」の改定に伴い、平成27年3月に学内の研究倫理規程を改正し、平成27年度から毎年度、研究倫理研修会を開催している。

令和元年度は、全教員と研究事務及び研究費の執行に関わる職員を対象に、外部講師による講演とグループワークを含む研究倫理・コンプライアンス研修を実施し、対象者全員が受講した。受講後アンケートの結果は、理解度、満足度ともに前年度より高くなっており、公正な研究活動を行うためのスキル向上に有益な研修となったと考えられる。

IV 地域貢献の状況について

1 県民向け公開講座等について

(1) 本学主催公開講座

本学の教育・研究の成果を広く県民に還元するために、公開講座やシンポジウムを開催している。

令和元年度は、地域連携センターが主体となって企画した公開講座「地域で生きる宮城大学の知」を全11回開催したほか、各学群等においてそれぞれ企画し、公開講座・シンポジウムを計54回開催、延べ1,435人が受講した。

		H29	H30	R1	
延べ開催数計（企画）		52	53	54	◇「地域で生きる宮城大学の知」（全11回）
公開講座	テーマ件数（件）	33	34	29	◇看護学群「支え合う地域社会」
	延べ開催数（企画）	49	51	53	◇事業構想学群「(仮)屋台を用いたパブリックの拡張」
	延べ受講者数（人）	1,602	1,456	1,406	◇食産業学群「SDGsセミナー」
					◇基盤教育群「学ぼう英語のいろいろ」ほか（全8回）
◇看護職対象専門講座（全23回）					
シンポジウム	テーマ件数（件）	3	2	1	◇「首都大学東京との公開シンポジウム」
	延べ開催数（企画）	3	2	1	
	延べ受講者数（人）	146	86	29	◇大崎市移動開放講座（全6回） ◇自治体・企業向けセミナー「地域公共交通計画実践講座」（全2回）

(2) 学都仙台コンソーシアム主催公開講座

県内の大学等の高等教育機関が連携し運営する「学都仙台コンソーシアム」が、仙台市中心部の仙台市市民活動サポートセンター（サテライトキャンパス）で、それぞれの大学の特色を生かした公開講座を開催している。本学からは全4講座を出講し、延べ63人が受講した。

	H29	H30	R1	
テーマ件数(件)	6	8	4	◇学都仙台コンソーシアムが主催する公開講座への出講
開催箇所(箇所)	6	8	4	「探求型地域づくり学習支援ツール「地域資源クエスト」の紹介」
延べ開催数(講座)	6	8	4	「どう変わる？小学校英語」
延べ受講者数(人)	260	183	63	「日本の中規模公立大学における「国際化」:現状と課題」 「【仙台学】人口で見る仙台の過去・現在・未来」

2 自治体や企業等との連携について

自治体や、大学、経済団体、金融機関等と連携協力に関する協定を締結し、お互いの特色を生かした様々な事業に取り組むなど、大学の教育・研究の成果を地域に還元している。

令和元年度は、新たに宮城県議会と連携協定を締結し、市町村との連携協定数は14、公的機関等との連携協定数は14となっている。

H29	H30	R1	
14	14	14	<p>■市町村との連携協定数</p> <p>仙台市（泉区）、大崎市、気仙沼市、白石市、南三陸町、加美町、美里町、蔵王町、兵庫県神河町、福島県下郷町、大和町、利府町、角田市、富谷市</p>
13	13	14	<p>■公的機関等との連携協定数</p> <p>宮城県、宮城県教育委員会、国営みちのく杜の湖畔公園事務所、兵庫県立大学、兵庫県立淡路景観園芸学校、(株)ホットランド、宮城蔵王観光(株)、泉パークタウン町内会・自治会連絡協議会、日本政策金融公庫仙台支店、仙台商工会議所、七十七銀行、東北医科薬科大学、宮城県食品産業協議会、宮城県議会</p>
—	3	2	<p>■企業との連携による産学連携講座</p> <p>平成30年度から新カリキュラムに産学連携講座を配置し、企業からの申出等を受け入れる仕組みづくりと企画・調整を行った。</p> <p>◇トヨタ自動車(株)「トヨタ講座」</p> <p>◇協力企業8社「君の未来創造論」</p>

3 市町村等からの調査・研究の受託

企業や自治体等からの相談を基にニーズの掘り起こしを行い、調査研究等13件を受託した。

	H29	H30	R1	
地域連携センターの調査研究等の受託数	5	11	13	<p>◇自治体</p> <p>仙台市 「令和元年度 特産品プロジェクト業務」</p> <p>利府町 「つながり創出プロジェクト「まちづくり大学」事業実施支援業務」</p> <p>大崎市 「大崎市・宮城大学連携協力事業 展示企画運営業務」ほか</p> <p>◇KC みやぎ産学共同研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> 放射光施設活用による食品・料理のブランド化に向けた「科学的根拠（エビデンス）」の構築に関する調査・研究 「関上赤貝のブランド再生」-近赤外線による非侵襲でのアカガイ身色選別技術の開発- ほか